

令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272100959		
法人名	有限会社 三英会		
事業所名	グループホームにこにこ		
所在地	〒038-2701 青森県西津軽郡鰺ヶ沢町大字北浮田町字平野206番地4		
自己評価作成日	令和4年11月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	令和5年3月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>個人を尊重し、安全と衛生が保たれた環境で地域との交流を大事に、毎日穏やかに笑いの絶えない生活が送れるなどの介護理念をモットーとしている。 看取り介護について力を注いでいる。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>高台に位置し見晴らしが良く風光明媚で、住宅街に立地しており住民の生活が身近に感じられる環境にある。個人を尊重し、自然体で暮らせるよう生活支援しており、環境面でも安全・衛生に配慮し、グループホームの持つ機能を開放し地域と交流しながら事業展開している。コロナ禍で外出が制限される中でも、利用者の希望に合わせドライブに出掛け、ご当地名物を楽しんでもらい喜ばれている。毎月カンファレンスを行い、個々の状況、課題、方向性を検討し、職員から活発な意見が出され改善に繋がっている。職員間の協力体制も良好で、代表者を中心に風通しの良い職場であり、働きやすい環境にある。看護師が常駐しており、医療機関との連携も図られ、家族の希望に応じて看取り体制も整備され実績もある。資格取得を奨励しスキルアップに繋げ、サービスの質の向上に前向きに取り組んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間で意見を出し合い決めた理念を掲示し、全職員が理解共有し、日々ケアの実践に取り組んでいる。	個人の尊重、安全で衛生的な環境、地域との繋がりの3点に重点を置いた理念を掲げ、職員は諳んじており、日々の介護の場面で具現化している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気日和の日はホーム近くを散歩し、近隣住人とのふれあいを楽しんでいる。	以前は、主催の納涼祭に招待し、盛んに交流していたが、現在はコロナ禍で自粛している。状況が許せば再開の予定である。有事の際の協力を依頼したり、日常的には周辺を散歩し、近隣住民と挨拶を交わし交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の時などに認知症についての講習会を開催。 ゴミの収集場所を地域に提供し収集場所の清掃やゴミの分別を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度開催し、現在のサービス状況について報告している。また、参加者との意見交換を通じてサービス向上が図られるように努めている。	メンバーが重なる事から同地区の事業所と合同で行い、隔月で書面開催している。入居状況、事故・ヒヤリハット事例、身体拘束防止の取り組み、内部研修、活動報告と予定を送付し、面会時に意見や感想を頂き、業務に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や町内グループホームとの交流会を通じ、意見交換を行っている。不慮の事故等が発生した場合速やかに連絡を取り合い、より良い協力関係をできる様に努めている。	近隣の6事業所が合同で3ヶ月毎に集いを行い、行政の参加もあり、各事業所の現状や困りごと、対応策等話し合っている。コロナ禍で更新時の訪問による認定調査の必要性を確認したり、日頃から連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について勉強会に全員参加し、日々努力し共有し合いながらケアの実践に取り組んでいる。	指針が整備され、年2回内部研修を行ない、全職員が感想を提出し理解度の確認も行われている。3ヶ月毎に身体拘束ゼロ委員会を開催し、身体拘束に該当する事案が無いか検討し、境界的な部分は早期に改善している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開催し、日々の観察や業務中にも職員間で注意し合いながら虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を利用されている方がおり、勉強会を行っている。また、必要に応じて報告・連絡・相談を徹底している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書等を基に説明。 家族の意向を聞きながら不安や疑問に対し説明を行い、理解納得安心安全を図る。 退去時や改定時も十分に説明を行い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を設け意見箱を設置している。 意見要望があった際は全職員で話し合い対応できるように努力する。便り、必要に応じた電話連絡を行い面会時など意見や要望が話しやすい環境づくりを心掛けている。	意見箱を設置しているが利用は殆ど無く、これまでに苦情の事例も無い。外部の窓口は契約時に書面を以て説明している。面会や電話で要望等を確認しており、意見があった場合は全職員で話し合い、対応に齟齬が無いようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、各ユニットでカンファレンスを行い、その後全ユニットの職員が参加し全体会議を開き意見交換を行っている。	毎日のミーティングや日々の業務の中で意見を出し易い雰囲気があり、疑問点や助言等はタイムリーに発信している。毎月のカンファレンスでもケアに関する細かい意見が出され改善に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場状況他、職員日々の努力勤務状況を把握している。労働条件を整えている。保有資格を活かした職員配置。職員のやりがいや向上心が持てる職場環境となるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会を通じ全職員の知識や技術の向上に繋がっている。 職員たちは個々の力量や経験に応じた研修を受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内にある5事業所の職と役場職員が集まり3か月に1回交流会を行っている。 入居状況を報告したり、困難事例の対応方法や災害時の避難方法等について意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	全職員が利用者の意見や要望に耳を傾け気兼ねない信頼関係を築くよう努めている。アセスメントの情報を持ち寄って話し合いを行い利用者が安心して生活できるような環境づくりを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みや面談時に家族の思いや要望を聞けるように話しやすい対応を心掛けている。面会時などにも相談があれば速やかに対応するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状態を把握し、家族からも情報収集を行い、一番必要とされるサービスを受けられるように情報提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の立場に立って個々の思いを理解することを第一に考えている。出来ることは手伝って頂いたり、わからないことは教えて頂いたりとお互いに持ち支え合うような関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族あてに行事や受診内容、ホームでの生活の様子などをお便りで報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の許可がある場合のみ支援に努めている。	家族の協力で墓参りに出掛けたり、行き付けの理美容院まで送迎したり利用継続を支援している。以前は、お盆の帰省で宿泊する事もあったが現在は自粛してもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全職員が利用者同士の関係を把握しており、トラブルにならないように配慮しながら会話の仲介をしたり、利用者同士が関りを持ちながら支え合うような関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても要望があった場合、できる限りの範囲で支援し対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの意向や要望に耳を傾げできる限り要望に沿えるように努力している。対応できないことに関しては家族に協力をお願いすることもある。	当日の担当を設定し、意識してコミュニケーションを多く持ち、何を望んでいるのか把握し、その実践に努めている。食事席の変更や、新しい利用者への戸惑い等が見られた時は、希望に沿うようにし、心理的なサポートも行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居する前にこれまでの生活歴や暮らし方、生活環境等の情報収集を行い入居後も家族や関係者から情報を得て、これまでの経過等を詳しく把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を通して一人一人の状態を観察しながら、生活リズムや心身状態等現状把握ができる様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族の要望を踏まえた上で本人が安心して生活する為には今何が必要なのか定期的にカンファレンスを行い、現状に見合った介護計画を作成している。	事前に家族に要望を確認し、毎月のカンファレンスで出された思いや課題の達成に向けた計画が立案されている。モニタリングも毎月実施し、計画の進捗状況を把握し、状況に応じて見直しも行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に毎日の様子やケアの実践状況や気づき等を細かく記入している。ほかにも申し送りや連絡ノートも活用し職員間で情報を共有しながら介護記録の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	随時利用者や家族の状況に応じて一人一人のニーズを検討している。 柔軟なサービスができるように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の保育園に協力して頂き子供とのふれあいの場を設けている。 地域住民共同で防災訓練を行い消防の協力も得られている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を第一にこれまでのかかりつけ医への継続受診や希望する医療機関へ受診できるよう対応している。必要に応じて別の医療機関へ受診する場合もあるが、その際は家族の了解物と受診している。往診もありそれぞれの希望に沿って支援している。	基本的に主治医は継続とし、受診に同席する家族も居る。往診が行われており、家族が希望した場合は医療機関を変更する事もある。受診は事業所車輛で職員が行っており、結果は都度電話連絡している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を通じて看護師にいつでも相談し適切なアドバイスを受けることができる体制が整っており、適切な受診が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は介護サマリや口頭で情報提供を行いその後も必要に応じて電話でのやり取りをしたり、普段の受診時などにも聞き取りをしたり、病院関係者との関係作りにも励んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族との信頼関係の中で十分話し合いをし終末期を迎えた時のターミナルケアの同意書を作成し必要に応じ何度も話し合いをして支援している。	指針を整備し看護師が常駐しており、医療機関との連絡体制も盤石であり、不安なく看取り対応が行われている。重篤な状態の時点で医師より家族に説明があり、希望した場合は同意書を頂き、出来る事を明確に伝え信頼の下実践している。夜間は看護師か職員が事業所で待機し、申し出で家族が泊まり込み一緒に看取るケースもある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルで定期的に施設内で勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行い、内1回は消防署員立会いの下訓練している。 夜間を想定した訓練も発生状況を替えて行っており、地域住民や消防団へ協力をお願いしている。	夜間想定も含み、年2回訓練を行っている。 近隣住民や地元消防団への協力依頼を続けており、今後に期待している。ホットラインの側に緊急時の連絡網を掲示し、全職員が通報出来る体制にある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し声掛けや対応に注意し、日々のケアを行う勉強会を行い統一したケアが行えるようプライバシーに配慮した対応を心掛ける。	プライバシー保護に関する内部研修が行われ、全職員が感想を提出し、重要性を認識している。日常の対応の場面でも、人格に配慮した言葉遣いを心掛け、実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望、言葉・態度・表情・行動から汲み取りながら本人意思決定できるよう働きかける。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムを把握したうえで本人の希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望を尊重しつつ、一緒に選んだり、季節やその時々状況にあったオシャレ等アドバイスをして支援する。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力を見つけながらお手伝いしてもらおう。身体状況に応じて刻み食トミ食等の献立作りをしている。	利用者の希望を取り入れた献立で、出来る利用者には野菜の下拵え等行ってもらっている。マンネリ化を防ぎ喜んでもらうよう、外注食にしたり、園庭で色々な具材を使って流しそうめんを行ったり等工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	自然の食べ物がいっぱいある街なので季節の食材を使った献立。 水分摂取も健康板に記録し職員全員が把握できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがい義歯洗浄等できない方へは介助し、できる所まで見守りをしその後の介助をする。その方に合わせた対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の排泄を把握できるように努める。提示の声掛けの他に誘導することで失禁やオムツの減少に繋がるように支援している。	個別の排泄チェック表を活用し、排泄パターンや尿量を把握し、定時・随時にトイレ誘導する事で失禁の減少が観られ、不快感の解消に繋がっている。出来るだけオムツにならない計画を立てて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や食物繊維の摂取を促したり適度な運動ができるように支援している。状況に応じて医療機関に相談し処置して頂く。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週2回以上と決めています。体調不良の方には入浴日の変更や清拭を行う。	入浴は週2回設定しており、誘導・着脱・洗身の3人体制で支援している。残存能力のある利用者に対しては、出来るだけ自力で行うよう声掛けし、職員がフォローしている。拒否された場合は声掛けを工夫し入浴に繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の生活リズムを作っている。寝付けない利用者にはホールで過ごして頂き就寝時間を遅らせたりする。眠剤を服用されている方は定時に服用することで安眠に繋がっている。生活習慣やその時の状況に応じて日中も休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日職員が健康確認表を確認する。訪問薬剤師の説明をひとり一人に申し送り説明する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴、能力を把握し軽作業を楽しみながら行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺を散歩したり行事で外出する機会を設けている。体調を考慮しながら喜んでいただけるように支援している。	利用者の希望に応じて、ドライブに出掛け名物を食して楽しんでもらい、閉じこもりを防止している。以前は四季折々に観光名所に出掛けており、外出の制限がなくなれば再開を予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者・家族と相談の上自己管理できる範囲でお金を所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	子機を利用できるようにし、職員が掛けてあげたり、家族からの電話は子機を使用して自室で話せるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温の調整、テレビの音量、日差しの強さ等に気を配りながら対応している。 季節の花や掲示物を作ったり飾ったり音楽をかけて心地よく過ごせるように工夫している。	高台にあり、大きな窓からの眺めは四季の移ろいを間近に感じさせてくれる。温度湿度も管理され、細目に換気を行ない感染対策を行っている。壁には、利用者手作りの折り紙飾りが掲示され、アットホームな雰囲気に包まれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前にソファを置いたり、利用者同士が会話する場を多く提供し憩いの場を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好きな写真や絵等を飾ったり、状態に応じてアセスメントを行い必要に応じて配置換えしたり居心地よく過ごせるように支援している。	在宅で使用していた、衣装ケースやテレビ等本人が必要と思う物を持ちこんでいる。写真や作品、家族から贈られた物等飾っており、快適で個性が感じられる居住空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレには目印や特徴を持たせたり、大きめのカレンダーを用意したり、できる範囲で軽作業をお願いしたりと自立した生活が送れるように支援している。		